

## 2021 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科  | 言語聴覚学科     |                 | 科 目 区 分  | 専門分野       | 授業の方法                 | 講義演習          |
|--|------------|-----------------|--|------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名  | 嚥下障害(小児分野) |                 | 必修/選択の別  | 必修         | 授業時数(単位数)             | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年  | 2年生        |                 | 学期及び曜時限  | 後期 金曜3, 4限 | 教室名                   | 第4校舎301       |
| 担 当 教 員  | 松浦雄史       | 実務経験と<br>その関連資格 |  |            |                       |               |
| 《授業科目における学習内容》   |            |                 |  |            |                       |               |
| 摂食嚥下障害に関する、基本的知識、訓練手技等の習得を目指す。   |            |                 |  |            |                       |               |
| 《成績評価の方法と基準》   |            |                 |  |            |                       |               |
| 学期末テスト   |            |                 |  |            |                       |               |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》  |            |                 |  |            |                       |               |
| 特になし   |            |                 |  |            |                       |               |
| 《授業外における学習方法》  |            |                 |  |            |                       |               |
| 小テストを実施するので、学習した内容を復習しておくように。  |            |                 |  |            |                       |               |
| 《履修に当たっての留意点》  |            |                 |  |            |                       |               |
| 摂食嚥下障害は言語聴覚士の業務において高いニーズがある。嚥下障害の基本的知識に加えて、小児分野における嚥下機能の獲得およびリハビリテーションを理解することは、言語聴覚士として摂食嚥下のリハビリテーションを行う上での土台を築くことになる。 |            |                 |  |            |                       |               |
| 授業の方法  | 内 容        |                 |  | 使用教材       | 授業以外での準備学習<br>の具体的な内容 |               |
| 第1回  | 講義形式       | 授業を通じての到達目標     | 摂食嚥下障害の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。                     | PC、スピーカー   | 事前配布資料に目を通しておくこと      |               |
|  |            | 各コマにおける授業予定     | 摂食嚥下障害の基本的な考え方と5期モデルの認知期、準備期について学び、理解する。           |            |                       |               |
| 第2回  | 講義形式       | 授業を通じての到達目標     | 摂食嚥下障害の5期モデルについて理解し、説明できるようになる。                    | PC、スピーカー   | 事前配布資料に目を通しておくこと      |               |
|  |            | 各コマにおける授業予定     | 摂食嚥下障害の5期モデルについて学び、摂食嚥下のメカニズムを理解する。                |            |                       |               |
| 第3回  | 講義形式       | 授業を通じての到達目標     | 摂食嚥下の神経機構、プロセスモデルについて理解し、説明できるようになる。               | PC、スピーカー   | 事前配布資料に目を通しておくこと      |               |
|  |            | 各コマにおける授業予定     | 摂食嚥下障害の神経機構を学び、咀嚼嚥下について、プロセスモデルを通して理解する。           |            |                       |               |
| 第4回  | 講義形式       | 授業を通じての到達目標     | 高齢者の摂食嚥下の特徴について理解し、説明できるようになる。                     | PC、スピーカー   | 事前配布資料に目を通しておくこと      |               |
|  |            | 各コマにおける授業予定     | 加齢に伴う、摂食嚥下機能の変化について学び、高齢者の摂食嚥下のリハビリテーションの留意点を理解する。 |            |                       |               |
| 第5回  | 講義形式       | 授業を通じての到達目標     | 摂食嚥下機能の評価について理解し、説明できるようになる。                       | PC、スピーカー   | 事前配布資料に目を通しておくこと      |               |
|  |            | 各コマにおける授業予定     | 摂食嚥下障害の評価について、RSST、MWST等を学び、理解する。                  |            |                       |               |

| 授業の方法 |      | 内 容         |   | 使用教材     | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|----------|-------------------|
| 第6回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 摂食嚥下障害のリハビリテーションのプログラムを理解し、説明できるようになる。              | PC、スピーカー | 事前配布資料に目を通しておくこと  |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 摂食嚥下障害の評価から、問題点の抽出および、リハビリテーションプログラムの立案について学び、理解する。 |          |                   |
| 第7回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 小児の摂食嚥下機能の獲得について理解し、説明できるようになる。                     | PC、スピーカー | 事前配布資料に目を通しておくこと  |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 小児の摂食嚥下機能について、舌での押しつぶし機能の獲得を実技を通して学び、理解する。          |          |                   |
| 第8回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 小児の咀嚼機能の獲得について理解し、説明できるようになる。                       | PC、スピーカー | 事前配布資料に目を通しておくこと  |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 小児の咀嚼機能の獲得について、構造的な変化と共に学び、理解する。                    |          |                   |
| 第9回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 形態異常を伴う摂食障害について理解し、説明できるようになる。                      | PC、スピーカー | 事前配布資料に目を通しておくこと  |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 形態異常を伴う摂食障害について症例を通して学び、食事の支援について検討する。              |          |                   |
| 第10回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 小児の摂食嚥下における、食事を通してのリハビリテーションについて理解し、説明できるようになる。     | PC、スピーカー | 事前配布資料に目を通しておくこと  |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 小児の摂食嚥下における、食事の中での機能的な評価とリハビリテーションについて、症例を通して学ぶ。    |          |                   |
| 第11回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 小児の摂食嚥下の間接訓練を理解し、説明できるようになる。                        | PC、スピーカー | 事前配布資料に目を通しておくこと  |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | バンゲード法やガムラビングなど、小児の摂食嚥下の間接訓練を実技を通して学び、理解する。         |          |                   |
| 第12回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 小児の摂食嚥下の直接訓練を理解し、説明できるようになる。                        | PC、スピーカー | 事前配布資料に目を通しておくこと  |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 小児の摂食嚥下の直接訓練の中で、咀嚼練習や甘未刺激訓練について、症例を通して学び、理解する。      |          |                   |
| 第13回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 小児の摂食嚥下の直接訓練を理解し、説明できるようになる。                        | PC、スピーカー | 事前配布資料に目を通しておくこと  |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 小児の摂食嚥下の直接訓練の中で、前歯咬断や水分摂取練習について、症例を通して学び、理解する。      |          |                   |
| 第14回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 遺伝子異常を伴う障害児の摂食嚥下の支援を理解し、説明できるようになる。                 | PC、スピーカー | 事前配布資料に目を通しておくこと  |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 遺伝子異常を伴う障害児の摂食嚥下の特徴を、症例を通して学び、課題を検討する。              |          |                   |
| 第15回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 知的障害、発達障害に伴う、摂食障害を理解し、説明できるようになる。                   | PC、スピーカー | 事前配布資料に目を通しておくこと  |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 知的障害、発達障害に伴う、摂食障害を症例を通して学び、課題を検討する。                 |          |                   |